

ぶらっとサロン椿通信 令和4年7月号

今号の椿:古城の月(にじょうのつき別名 寂光/じゃっこう)

R3.3.9 撮影



報告:有楽斎

毎週火曜日の午後1時過ぎから午後4時半ごろまで、朝日2丁目集会所で「健康麻雀ミーティング」をワイワイガヤガヤとやっていたのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、一昨年3月10日から自粛し**現在休局中**です。

【八百比丘尼と椿の花】八百比丘尼(はっぴやくびくに 又は やおびくに)

八百比丘尼は生涯椿の花を愛し、特に白い椿の花が好きだったと言われています。八百比丘尼は諸国を行脚しその地を去る際、白い椿をその土地に植えたという伝承が残っています。北陸から東北地方の沿岸部には椿が群生している聖地が存在し、八百比丘尼の遊行伝説と関わりをもって語り継がれています。

→福井県小浜市にある空印寺の洞窟と八百比丘尼が植えたと言われる椿



空印寺の境内の白玉椿と「八百比丘尼」像



八百比丘尼入定洞(やおびくににゆうじょうどう)

人魚の肉を食べて八百歳まで生きたという八百比丘尼伝説。全国を行脚し、貧しい人を助け、椿の種をまき花を咲かせた後、若狭に戻り亡くなったという洞穴。当時を偲ぶ椿の花が今も咲き誇り、健康長寿を願う人々のお参りが今も絶えません。八百比丘尼の特徴は、手に椿の花を持っていることで、空印寺の近くの洞穴に入定する時、「この椿が枯れたら私が死んだものと考えてください」と言い、洞窟の前に椿の花を植えたと言われています。

八百姫神社の後ろには、八百比丘尼がその手で植えたと言われる白玉椿が植えられています、白い椿は珍しく、四月頃から咲き始めます。

白い椿と言えば、下賀茂神社の三井社前にある「擬雪の椿」です。この下賀茂神社の白い椿と、本当に繋がっているとしたら・・・(?), パズルを紐解く仕掛けとして「八百比丘尼」像に椿を持たせているのでしょうか(?)

※擬雪の椿」は令和4年1月号(第38号)参照



↓空印寺にも植えられています



白石神社の椿群生地

福井県小浜市の、奈良・東大寺の二月堂のお水取りに水を送り出す、お水送りで有名な鵜の瀬(名水百選)のすぐ近くに白石神社があり、境内の椿群生林は市指定天然記念物

「鵜の瀬」の清流の畔に、渡来の姿をした若狭比古神が最初に降臨した若狭彦神社の元宮、白石神社があります。境内地は椿の群生林で、椿との関係が知られる八百比丘尼の伝承、東大寺を開いた良弁僧正生誕地の伝承などがあり、奈良と渡来文化、海と都をつなぐ伝承が集中して伝わる地となっています。鵜の瀬に注がれた聖水は10日かけて東大寺二月堂若狭井に湧き出し、お水取りが行われます。若狭の水と食を象徴する古代ロマンあふれる地です。

白石神社・鵜の瀬



福井県観光連盟 HP 等を参考にしました(有楽斎)